

答 辞

本日は、私たち卒業生のために、このような心温まる卒業式を用意して下さいました。卒業生を代表し、心よりお礼申し上げます。

入学したばかりの頃。朝起きてから学校へ行くまでの準備に、三十分もかかっていました。それから一年が経ち、今まで三十分かかった準備が十分で出来るまでに成長し、そして三年生になり、髪が伸び始めた私は、今まで以上にくせ毛に悩まされ、今まで使うことのなかったヘアアイロンを使うようになった結果、十分だった準備時間が再び三十分に戻ってしまいました。そんな毎日のルーティンも、明日からは無くなるのだと思うと、寂しい思いでいっぱいです。今日の卒業式にあたり、私を支え、応援して下さいました皆さんに、心から感謝の思いを述べたいと思います。

「ありがとう」

この言葉を普段から使っている人は、どのくらいいるのでしょうか？簡単そうな言葉ですが、素直に伝えるのが照れくさい言葉です。私も、恥ずかしさで先立って、言えないことが多くあります。しかし、今日はこの場を借りて、これまで支えて下さった全ての人に、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

高校生として貴重な経験が出来たのも、楽しい学校生活を送れたのも、両親

のおかげです。いつも父さんと母さんが一生懸命働いてくれたからです。仕事で疲れているはずなのに、朝早く起きて、世界一美味しい弁当を作ってくれる母さん。素直じゃないけど、実は優しくて頼りになる父さん。美味しい料理を作って、いつも帰りを待っていてくれる笑顔がかわいい、じいちゃん・ばあちゃん。素直になれず、なかなか面と向かって言えないけれど、最後に言わせてください。

「今日まで愛情を注いで育ててくれてありがとう。」

三年間苦しい練習を一緒に乗り越え、時にはバカをして、時には本気でぶつかり合えた野球部のみんな、ありがとう。苦しいことも、楽しいことも、受験も行事も一緒に乗り越えてきたクラスと三年生のみんなに、ありがとう。小学校からずっと一緒に兄弟みたいな、お笑いが大好きな一番の相方、中学校の時に一緒にお笑いやろうって誘ってくれてありがとう。コロナ禍で色々な企画を考えて下さった学年の先生方、本気で私たちのチームを強くしようと、あえて嫌われ役になり、自分の時間を削ってまで指導して下さった顧問の先生方、そしていつも自分より生徒のことを優先し、忙しいのにも関わらず、疲れている顔ひとつ見せなかった、大好きな担任の先生、ありがとうございます。

思い返せば良い思い出が詰まった三年間でした。行事に部活、週に二回の小テスト、友達と夜遅くまで電話しながら勉強したテスト週間。学校で一番楽し

いお弁当タイム、友達との喧嘩や仲直り。青春と呼べる楽しい学校生活でした。

そんな楽しい行事や部活動は、新型コロナウイルス感染症によって、数々の制限がかけられてしまいました。部活動では練習、対外試合の禁止。行事ではその多くが中止や縮小。それでも私たちは、試行錯誤しコロナ禍ならではの行事を実施し、全員でコロナを乗り越えてきました。高校では、クラス対抗のスポーツ大会やかくし芸大会、附属中学校ではグラウンドゴルフ大会や防災・減災教育研修旅行など、どれも思い出に残り、友達との絆が深まった最高の行事でした。

そして、行事で鍛えられた三学年の力が、一番発揮できたのは受験だったと思います。受験シーズンには、学年・クラス内での良い雰囲気作りに励みました。自分一人が受ければ良いのではなく、学年全員の合格を目指し、精一杯目の前の課題と、そして自分自身と向き合ってきました。第一希望を目指しているまだ努力を続け、進路を模索し続けている人もいます。自分を信じ、目標に向かって頑張った本気の努力は、必ずこれからの人生に生きてくると、私は信じています。苦しいことを乗り越え、悔しいことを経験することも、自分を成長させる大きな糧になるはずです。

私自身も、高校三年の夏に、今までにない悔しい思いをしました。それは甲

子園がかかった最後の大会でのことです。今でも悔しさが残っているし、あの試合を忘れることは一生ないでしょう。

三年生と中学生のみんなが、三十度を超える猛暑のなか、朝早くから大きな声で応援してくれました。グラウンドにいる私たちにもその声は届いていました。大きな力になったことを思い出します。しかも、何日も前から応援練習をして、私たち野球部のために一丸となって取り組んでくれたことを知り、胸が熱くなりました。試合には負けてしまいましたが、終わったあとに、落ち込んでいた私たちを、チームの仲間や先生方、家族、クラスメイトが励ましてくれました。クラスメイトの中には、一緒に泣いてくれた人もいて、たくさんの人に支えられているということ、改めて感じました。

私は試合後、ある先生からいただいた言葉が忘れられません。「勝ってばかりの人生では成長できない。負けたからこそ、同じような思いをした人の気持ちに理解できるんだ」私はこの言葉に励まされ、再び前を向くことができました。周りには応援してくれる人、支えてくれる人がいるのだと気づかされ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

学校生活を思い返してみると、楽しいことばかりではなく、苦しいこともあったけれど、それを笑顔で乗り越えられたのは、指導して下さった先生方、信じあえる仲間、大切な家族がすぐそばにいてくれたからです。

工大二高、そして附属中学校は、生徒と先生方が一つになり、全力で学校生活を楽しむことができる最高の場所です。私たちはこの学校で学んだことを忘れず、これからも色んな人との出会いを大切に、生きていきます。今まで先生方が私たちを支えてくれたように、今度は私たちが困っている人や悩んでいる人を支えられる人間になります。

在校生の皆さんには、工大二高、そして附属中学校の良い伝統を引き継ぎ、また、より良い伝統を自分たちの手で築き上げていって欲しいと思っています。残された時間を無駄にせず、悔いの残らない学校生活を送ってください。皆さんのご活躍を期待しています。

名残は尽きませんが、旅立ちの時がきました。

私たち卒業生は、先輩たちを目標に、そして、後輩たちの手本となるべく、新しい世界に挑んでいきます。皆さん本当にありがとうございました。そしてまた会える日まで、成長し続けることをお約束し、お別れのことばといたします。

令和四年三月二日

令和三年度 卒業生代表 濱道 颯太

(高校第四十七回生 中学校第二回生)